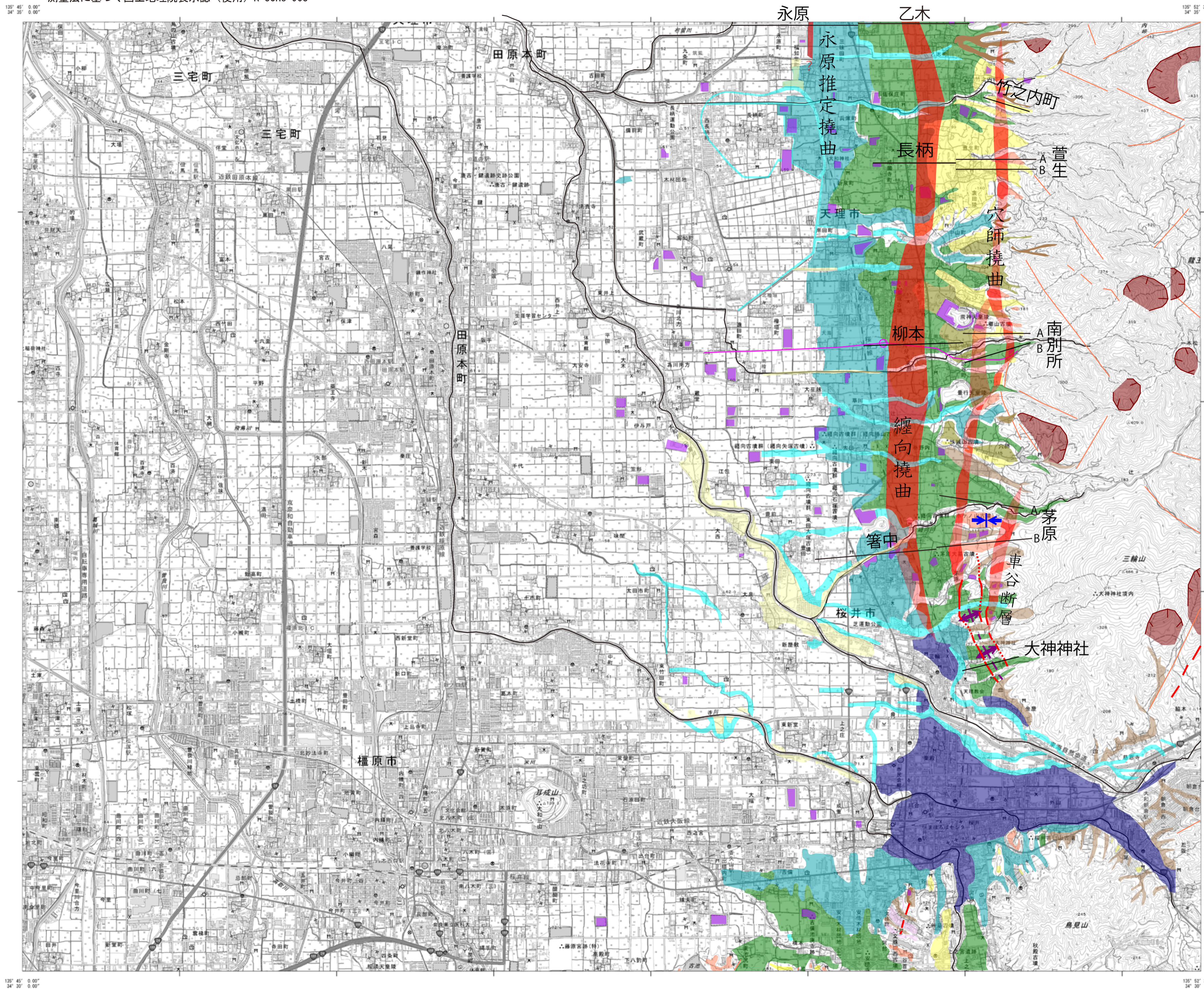


電子地形図25000

測量法に基づく国土地理院長承認(使用) R 3JHs 903

桜井

永原 乙木



- 活構造凡例
- 活断層(地表に破断変形生じる可能性大)
 - 伏在活断層(変位基準なし・地表に破断変形生じる可能性大)
 - 推定活断層(第四紀後期の活動未確定・地表に破断変形生じる可能性あり)
 - 活背斜(地表に背斜(引張)変形生じる可能性大)
 - 活向斜(地表に向斜(圧縮)変形生じる可能性大)
 - 活撓曲(幅数10m~数100mの傾動が生じる可能性大)
 - 伏在活撓曲(変位基準なし・幅数10m~数100mの傾動が生じる可能性大)
 - 推定活撓曲(第四紀後期の活動未確定・幅数10~数100mの傾動が生じる可能性あり)
 - 傾動帯(幅数100m以上の傾動変形生じる可能性大)
 - 傾動方向(矢の方向に傾き下がる)
 - リニアメント・古期断層(地表に断層変位をもたらず可能性低い)

- 調査項目凡例
- 地形断面位置
 - 反射法地震探査測線
 - ☆:断層
 - :傾斜変換点
 - :トレンチ調査地点
 - :調査ボーリング地点重要露頭

- 地形凡例
- 1930~40年代の水部(ため池など:その後埋め立てられたもの・現水部を含む)
 - 旧河道(埋め立てられた川の跡)
 - 自然堤防および破堤地形(堆積)(洪水時に土砂が堆積した微高地)
 - 天井川(歴史時代に形成された周囲より河床が高い川)
 - 緩斜面(土石流堆積物などが堆積して作られた斜面)
 - 低位5面(完新世後期=数千年前以降にできた段丘)
 - 低位4面(完新世=約1万年前以降にできた段丘)
 - 低位3面(更新世末期=約1.5万年前ごろにできた段丘)
 - 低位2面(後期更新世後期=約2万年前ごろにできた段丘)
 - 低位1面(後期更新世中期=約4万年前ごろにできた段丘)
 - 中位2面(後期更新世前期=約8万年前ごろにできた段丘)
 - 中位1面(後期更新世初頭=約10~12万年前にできた段丘)
 - 高位2面(中期更新世後期=約20万年前ごろにできた段丘)
 - 高位1面(中期更新世=数10万年前にできた段丘)
 - 地すべり地形(過去の地すべりによって作られた斜面)

記号

4車線以上	電子基準点	特別標高
2車線幅員13m以上	三角点	標高
2車線幅員13m未満	水準点	標高
1車線道路	市役所	神社
幅員3.0m未満の道路	東部区役所	寺
歩道	町村役場	高
高速道路	裁判所	風
国道及び国道番号	事務所	海岸・ガス
都道府県道	警察署	灯
有料道路	消防署	坑
唐路	保健所	堤
石段	警署	温
	交番	噴出口・噴気
	郵便局	採鉱
	小・中学校	城
	高等学校	史跡・名勝
	病院	天竺記念
	博物館	遺跡
	図書館	記念
	老人ホーム	自然災害被害
	電波塔	発電所
	建設中または運行停止中の鉄道	
	橋及び高架部	
	田	竹林
	畑	雑草
	茶畑	ハヤシ
	北海道総合振興局界	公園
	市界	果樹園
	所界	墓地
	特定地区界	
	送電線	社業線

普通道路 立体交差
高層建物 タンク車
無蓋倉庫
湿地
掘削
崩壊

水
水門
ダム
地下の水路
湧水
湧水方向
湧水の水路
湧池

おろし(小)
おろし(大)
おろし(中)

おろし(小)
おろし(大)
おろし(中)

1. 投影はユニバーサル横メルカトル図法、座標帯は第53中央子午線(東経135°)
2. 図郭に付した短線は経緯度差1分ごとの目盛
3. 高さの基準は東京湾の平均海面
4. 等高線及び等深線の間隔は10メートル
5. 磁気偏角は西偏約7'30"
6. 図式は平成24年電子地形図25000図式

令和3年9月3日 調製

電子地形図25000

